

令和4年度学校安全(防災)総合支援事業 に係る防災教育授業実践推進校実践報告

丹波篠山市立篠山中学校

研究の方向性

- ・対話を通して「地震・水害」の基本的な知識技能を身につける
- ・防災上の感染予防の視点, ICT活用の視点
- ・各教科領域において, 災害時の自分の命の守り方, 考え方, また地域の災害の特徴を知り, 見つめ直す授業を推進する
- ・新たな事業を立ち上げるのではなく, 今の教育課程の中で, マネジメントして工夫して取り組む。

授業実践の視点

(1)知る

メカニズム, ハザードマップ, 行政の取り組み, 災害の歴史, 調べ学習, 被害から身を守る手段

(2) 考える

自分の身を自分で守るために

自分ができることは

災害弱者への対応とは

災害発生後に必要なことは

災害発生時や発生後などの状況下で「新しい生活様式」の視点で必要なことは

(3) 行動する

自分が明日からできることは何か

「ともに生きる」視点で, 普段の生活でできることは何か

「新しい生活様式」で考えておくとよいことは

授業実践の視点

(1) 知る

メカニズム, ハザードマップ, 行政の取り組み, 災害の歴史, 調べ学習, 被害から身を守る手段

(2) 考える

自分の身を自分で守るために

自分ができることは

災害弱者への対応とは

災害発生後に必要なことは

災害発生時や発生後などの状況下で「新しい生活様式」の視点で必要なことは

(3) 行動する

自分が明日からできることは何か

「ともに生きる」視点で, 普段の生活でできることは何か

「新しい生活様式」で考えておくとよいことは

授業実践の視点

(1) 知る

メカニズム, ハザードマップ, 行政の取り組み, 災害の歴史, 調べ学習, 被害から身を守る手段

(2) 考える

自分の身を自分で守るために

自分ができることは

災害弱者への対応とは

災害発生後に必要なことは

災害発生時や発生後などの状況下で「新しい生活様式」の視点で必要なことは

(3) 行動する

自分が明日からできることは何か

「ともに生きる」視点で, 普段の生活でできることは何か

「新しい生活様式」で考えておくとよいことは

授業実践の視点

(1)知る

メカニズム, ハザードマップ, 行政の取り組み, 災害の歴史, 調べ学習, 被害から身を守る手段

(2) 考える

自分の身を自分で守るために

自分ができることは

災害弱者への対応とは

災害発生後に必要なことは

災害発生時や発生後などの状況下で「新しい生活様式」の視点で必要なことは

(3) 行動する

自分が明日からできることは何か

「ともに生きる」視点で, 普段の生活でできることは何か

「新しい生活様式」で考えておくとよいことは

具体的な取り組み

実施内容

- (1) 各教科での取り組み
- (2) 教科外での取り組み
 - ・避難訓練(年3回)
 - ・交通安全教室(4月)
 - ・AED心肺蘇生講習会(6月)
 - ・生徒会による登下校の安全啓発や危険箇所の点検
 - ・学校運営協議会(5月・10月)
 - ・阪神淡路大震災のロウソク献火
 - ・保健室の取り組み(防災・PTSDへの対応)

年間の計画

- 4月 火災避難訓練
- 5月 学校運営協議会（学校安全の討議）
生徒会の登校時の安全に係る取組
- 6月 各教科での防災にかかる実践授業の取り組み開始
トライやる・ウィークでの講話（災害時のボランティアの視点）
- 7月 第1回防災教育アドバイザー研修
- 10月 学校運営協議会（災害時の避難、生徒会との熟議）
- 11月 第2回防災教育アドバイザー研修
校内公開授業 各学年1教科
- 12月 火災避難訓練（予告なし）
防災研究指定公開授業・第3回防災教育アドバイザー研修
公開授業 全学年で合計4授業
- 1月 阪神淡路大震災（ろうそくの献灯） 地震想定避難訓練

防災アドバイザー研修 「防災教育の充実のために」



兵庫県立大学大学院

特任教授 富永良喜 先生（学校防災アドバイザー）

第1回防災教育アドバイザー研修

- 普段の授業の中に防災教育の視点を持つことの大切さ
- 「備える防災」の重要性について 災害の特性を知り、対応する力を備える防災のチェックリスト、トラウマのチェックリストの活用
- 正常性バイアスを知り、どう対応するか、また学校として「災害時の心のケア」をどのように考えていくか

第2回防災教育アドバイザー研修（校内研修）

- 生徒が目標に向け、主体的に取り組んでいたこと
- 先生、生徒が楽しそうに授業に取り組んでいること
- 学校防災アドバイザーからの防災の視点でのアドバイス
- 元EARTH員の兵庫県教育委員会中森指導主事からも授業アドバイスを研修

第3回防災教育アドバイザー研修

○教科の特性を活かして、

- ・地質的な理解の面から災害を理解する（理科）
- ・災害時の正常性バイアスやトラウマの状況、またそこからの回復への道筋（保健体育）
- ・災害時に英語を使ってどのように人と助け合うか（英語）
- ・日本を俯瞰的に見て、地域による災害特性や避難特性を理解する（社会）
など災害や防災理解の様々な面から授業を展開されていた。

○元EARTH員の兵庫県教育委員会中森指導主事からは、小学校との授業のつながりについても指摘があり、学びの連続性についても研修

○学校防災アドバイザーからのアドバイスを受けた。

各教科での取り組み

実施内容

(1)各教科での取り組み

国語：グループディスカッション

（防災について考える）

話し合いで問題を解決しよう

メディアと東日本大震災

数学：緊急地震速報

P波とS波の関係

災害から身を守ろう

社会：災害の歴史に学ぶ

日本のさまざまな自然災害

理科：地層から学ぶ災害史（洪水堆積物）

天気図を読みとり、天気予報を行う

自然が人間生活に及ぼす影響

英語：災害経路案内

町の安全について考える

外国人に必要な情報を伝える

技家：エネルギー変換の技術

美術：ポスターをつくる

音楽：地域に特化した標識と音楽の力

保体：自然災害による傷害の防止

水難事故についての危険性と

安全確保の仕方

一酸化炭素中毒の危険性について

災害時の心のケア

自立：自然災害に備える

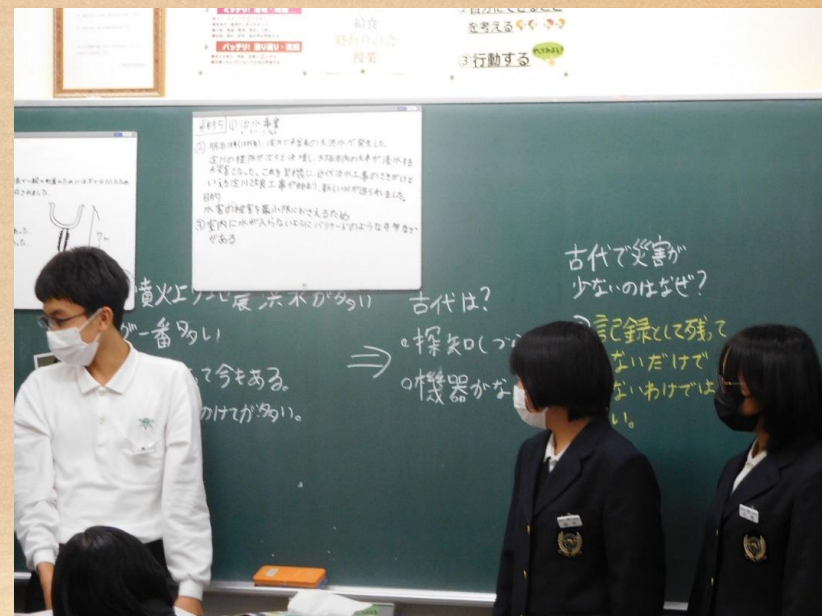
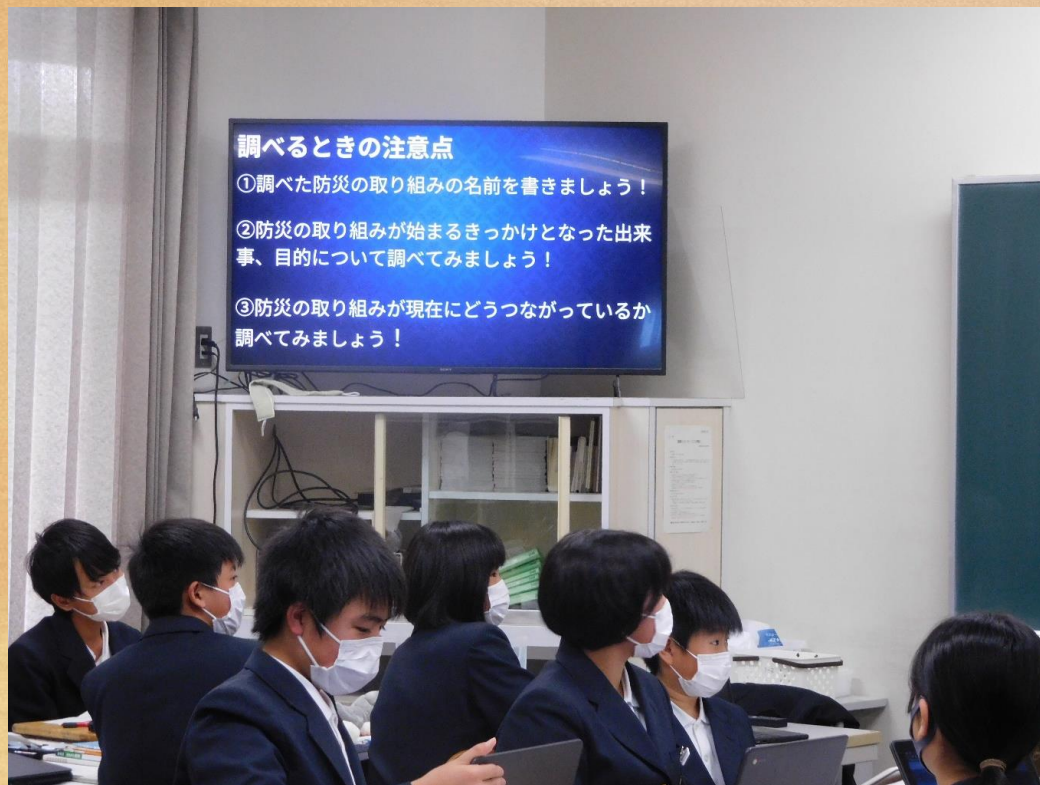
道徳：語りかける目（地震関連）

授業実践 | 理科 (2年)

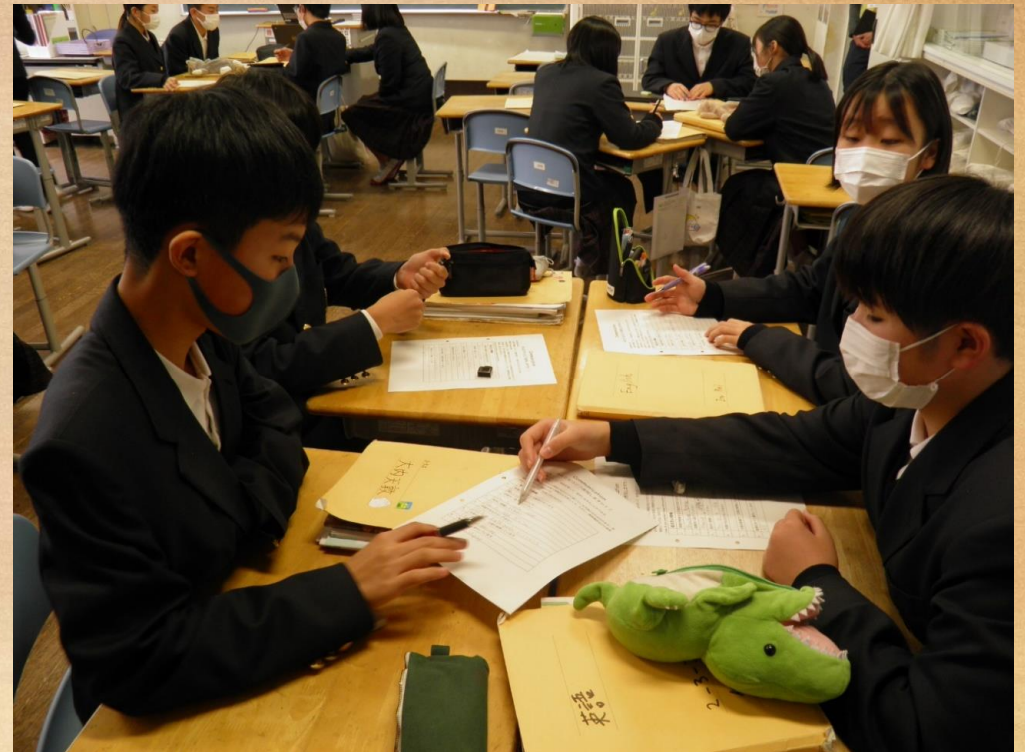
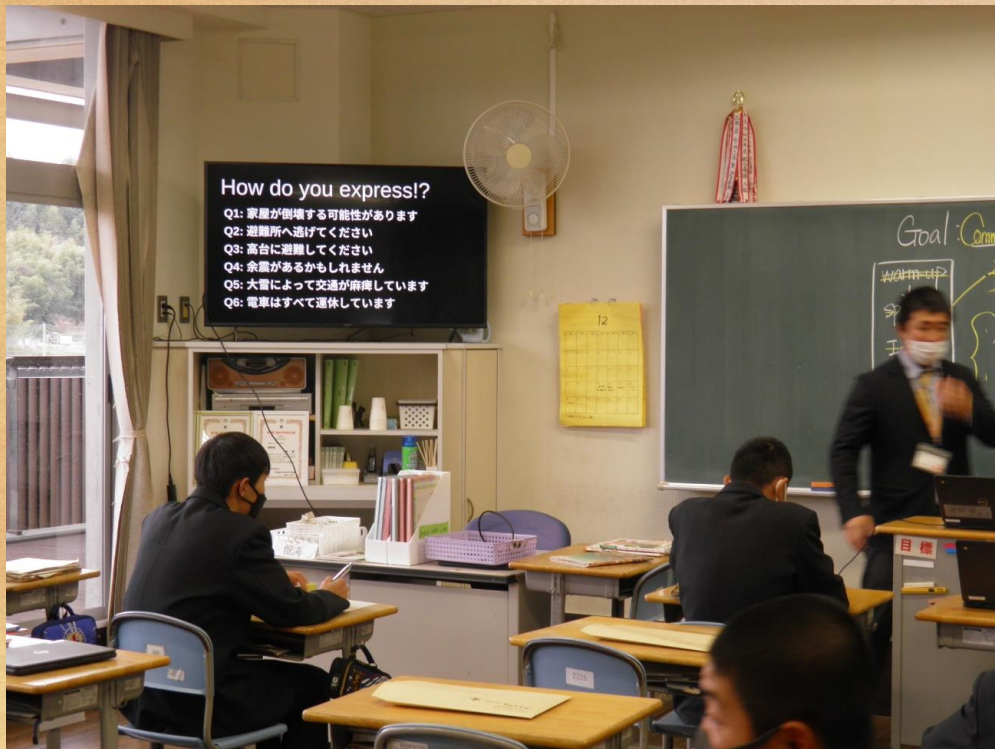
「天気の変化と大気の動き」



授業実践2 社会（1年） 「災害の歴史に学ぶ」



授業実践3 英語（2年） 「町の安全について考えよう」



授業実践 保体（2年） 「自然災害による傷害の防止」



授業実践例 道徳（全校生） 阪神淡路大震災のロウソク献火



授業外の取り組み

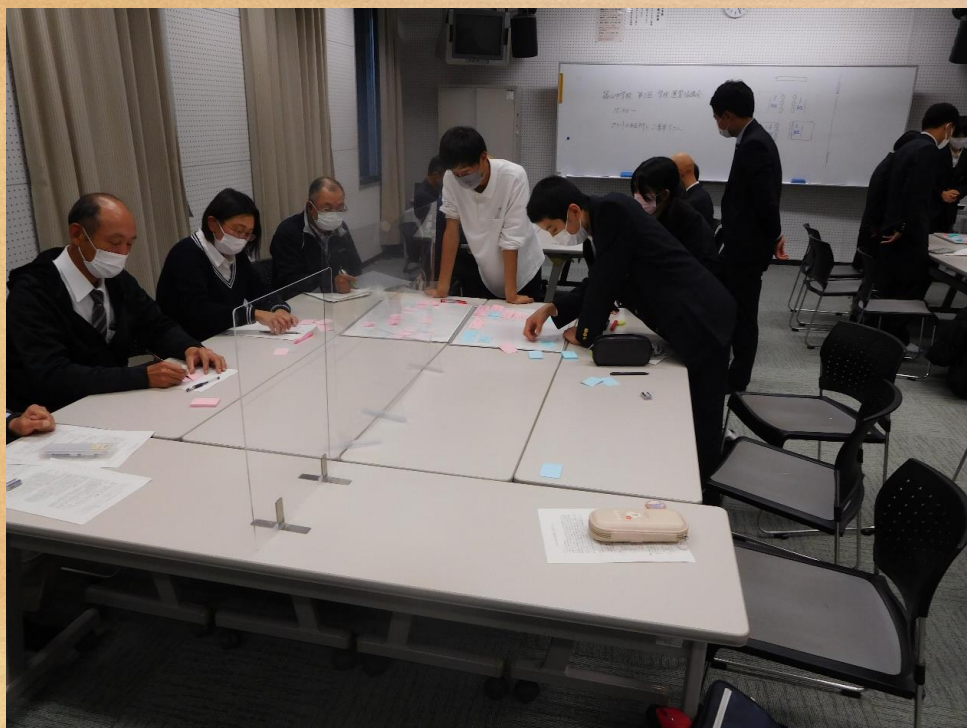
保健室の掲示：防災グッズ&PTSDへの対応



教科外での取り組み 抜き打ち避難訓練（12月）



教科外での取り組み 学校運営協議会（5月・10月）



成果

- ・一人一台端末の活用をイメージして、授業改善・防災教育に取り組んだこと
- ・新しい生活様式を防災授業の中に取り入れる視点を持ったこと
- ・各教科の特性をいかして、それぞれの視点から防災教育を各単元の授業の中に取り入れた授業展開にしたこと。このことにより生徒は様々な視点から、災害（地震・水害・心理的な被害）と防災について考え、相談し、対応する力を身につけたこと。
- ・全員の先生方の取り組みは「略案」の形式にまとめ、授業でのPDCAサイクルを意識したこと。
- ・カリキュラムを大幅に変更することなくできたため、日常の授業の中に防災の視点をしみこませることができたこと。

課題

防災教育の実践という意味では、各教科の特性をいかした分、全体として広く浅い視点になった。

防災教育の深さや、時間をかけて地域と連携したり、生徒が実践したり体験したりするような活動は難しかった。

ただ、他教科との兼ね合いや、既存のカリキュラム（他の課題教育）とのバランスを考えると、十分な取り組みだと認識している。